

## 重陽節、中国の「敬老の日」

中国で旧暦の9月9日(今年は10月21日)は、重陽節です。重陽節は、日本では馴染みの薄い節句ですが、陰陽思想に基づいた節句の一つで、旧暦の大晦日・除夕や清明節と並ぶ4大節句の一つに挙げられます。陰陽思想において、奇数は「陽」に分類されるため、9が重なる9月9日を重陽節と呼びます。9は1桁数字の中で最も大きい数字であることから、1989年以降は「老人の日」という意味合いが込められるようになり、日本の「敬老の日」のような老人への感謝や敬愛の日とされています。そこで今回は、重陽節にちなんで、中国の老人や高齢者を取り巻く環境についてご紹介します。



まず、中国における老人の定義は日本より広いかもしれません。なぜなら、定年年齢が、日本は65歳ですが、中国では男性が60歳、女性は50歳とされており、平均定年年齢は世界で最も若い55歳です。老人といっても若く元気な人も多いので、朝夕に公園で散歩や体操をしたり、広場でダンスをする老人達をよく見かけます。また、株や理財で財産運用する人も多く、朝一番の証券会社や銀行の店頭には老人で溢れていることも。また、毎月10日前後の年金振込日になると、老人のほとんどがATMに不慣れなため、開店前の銀行に老人達の長蛇の列ができています。そして、行列といえば病院に行くのも一苦勞です。特に上海には国内の有名病院が多いため、地方からも患者が訪れます。数時間から半日かけて順番待ちすることも普通です。

さて、全国平均の年金給付額は2000元(約4万円)余りですが、各都市によって物価や年金納付額が異なっています。現在、60歳以上の高齢人口比率は15.5%を占めていますが(日本は65歳以上が25%)、2020年には約20%、2050年には約40%に増加すると予想されています。ちなみに、2014年末における上海市年金保険(正式名称:城鎮職工業基本養老保険)の平均給付金額は2,964元(約59,280円)で、上海市戸籍人口の3割が年金受給者であり、国内でもっとも高齢化問題が深刻な都市です。

このように、中国でも真っ先に高齢化社会に突入した上海では、10年前から介護福祉関連用品の展示会が開催されています。そして、ここ数年の間に、中国各地でも高齢者産業の展示会やビジネス交流会が増え、特に介護関連用品へのニーズが高まっています。日本貿易振興機構(ジェトロ)も今年度の重点産業に高齢者産業が含まれており、各地の展示会にジャパンプースを設置するほか、出展支援を行っています。聞くところによると、日本の介護関連用品や健康用品の種類は大変豊富で、少なくとも数万以上のアイテムがあるのに対し、中国にはまだ数千ほどだそうで、介護関連用品の対中輸出にはビジネスチャンスがあるそうです。

日本では、子供も独立した老後は夫婦でのんびりと暮らするのが一般的かと思いますが、中国では、上述のとおり、定年年齢が若い上、活発な老人が多いので、孫の面倒を見ながら家事を手伝うというのが一般的です。また、共働き家庭が大半なので孫の面倒は老人の役割になっていますし、年金などの社会保障が日本に比べて手薄なので老後の経済的援助は子の役目だという理念が強いのです。そこで、介護施設よりもデイサービスへのニーズが大きく、日本の老人介護サービスにおける運営管理ノウハウに対するニーズが高まっています。

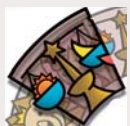


日本と中国の老人を取り巻く環境には違いが多いですが、中国も日本と同様に、社会保障費増大という問題に直面しています。そこで、「定年年齢を63歳に引き上げ」や「納付年数を現行の10年から30年或いは35年に延長」という議論も持ち上がっており、今後は「老人」の定義も狭められ、私の老後生活もまだまだ先になりそうです。

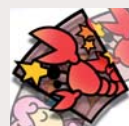
(協)広島総合卸センター 囑託  
(前)上海事務所 所長  
蔡 德 榮

+

+



天秤座生まれ 9月23日~10月23日  
周囲の様子をチェック。  
自己流よりも合わせた方が良いでしょう。



蠍 座生まれ 10月24日~11月22日  
視野が狭くなりがち。  
ひと呼吸おいて全体をみてみよう。